



集義外書

八之十



僧
773
159

集義外書卷八

既論五



一心友同養性大事小高仰不覺死とわたりて合ふ高か
りて身とあつて一喪に居る君の之儀ありあられ見
り大用かりんものむうひうすきのふくゆを何そ帝
堯ハ許由成り一先武ハ子陵とむして大事とたふせむ
ゆ也 至善の親目ありまらん若也致をたつて
や一死とわたりて以後の親を己の親とす所の親あ
りされと大事とまのひようひ合の人情うすく成り成す
くれさうと一形神よく執り合ひ一世の志ありこれ
さゆふ所礼位一存の格法とぬくさ成りうすく
成りかありたれとわたりて不覺若大事は高か

うらむは用をこれ一用としかるれとのほろろ取らるう
と一なるま二蓋可用なきことそれ祭礼々礼の天からるも是
細り小二蓋と目して祭礼とるものい文名爲礼の儀なり
と一敬のこむなり他のりれ儀知れ下しこれやとこさ
すして下と目しりて教をたして天下にほはるるなり
同を年一人のらるる人を儀約と申し此とも古の良俗の
しきなりり民をこく國新なるものい何をや云人の
衆やまらぬり也公の衆をやあししてゆと儀をせんする所の
あは減して物を生んす減とふ知る人而とせく
庶人職を失ふ生るる而る人なき物と求り民をと捨く
束は物もむく存士つりく良俗一民益世民をたれ橋
奈乃風俗よりいして大男小男たよ用とこい何と欲て下と

やくまんやをこひ今の民は年貢とろくしてやとこはも民
のあきつひとも成つらうそその後い教をたれもあはく士ら富
るいゆりてとてりて之れたたり民の精實をこのあし
せいと好く一年の妻子の善とも一徳をむくくこれ士
民をよ教をけきり也 同天下を久のすしる儀の法もけき
あり何と欲て今人の世の政とせんや 云士君子なる人
及と學問の仁と好く人民とむき仁あはれを教なり
をたれり物儀をり仁愛を教なり也る儀をてい上
下の為よをり法よ出る所の必害ありむむといとこり
同とる人仁愛を教の儀あり儀約の法と示し此とも
人民の爲よのこりなり何をや 云乃學の教あまひり
れ人たうの人の心服せりる善をこも徒音也教ふ

政とありふ不足は有る者蓋しありあは候約と地々ふれ
をとしていふく一也一とこわることのいふこととく候約
者ありとあかありうふふふふふふふふふふふふふふ
いふり取らう一は終るなりとていふこととく

一 爰同興滅國絶世之章 若云氏ノ功德あり人の
子孫ありとて國と夫ひふん封して祭儀とこわめり
孫をたのむ同姓とてつねに祭と奉りてむ徳ありとて
凡ち若と奉用する所はゆゑとて是皆天下の人公此神あり
而たりとあり(若くは)無くとてわれはり付ふめ公といふ也
後世無農とてわきとてありの國ととて世に絶り天下の
大凶事ニありとて一は君一人といふ罪ありとて家中
流傳人と成て流傳と敬敬す故月妻子たよぬとて万人

よ及て飢饉の年になさくといふれをを物とて之代神約と
感激をまて二とて風俗ありとてあり早免罪一人とて
アとて去久をてす國郡の君罪ありとていふも子孫をけ
也の同姓とて及てありて七也又家中の敬教は同
或同國郡のま七也又及て乃國郡のまあるとて宰人と
持持ありふありとて也 云む抱ありとていふも十と一も
ふ人乃宰人百人あはせりとて也とてやうにといふとて
力の大男とて家の昔代の若候とて立力を百石一二千石
もをり子孫を七千石も成切有れ五百石三百石也
歩士の中は或いふ知れりも成中百石も歩士とぬれ知
りぬもむりといふとありぬとて是程等のよとて多しめ公様
志記との名も及て立力をた士乃風俗ありといふとて

有流海人とのふものを一むらうく一家のまたく衆人の
ゆゑ方をたまたま又あつた

一 舊友同世も願負たど一とひするも大切なる人此のといひ
まきす一とむれ計候しこれやまされ其人の害まきりひ
あつては願負もたゆりや 一 世も小願負の候一とひは
あつては願負のといひは思へて願負して人とて候はぬ考を
見ゆれば願負とせんやま人のむらうかひあつては
ゆゑ衆も思ふ道とて人ゆらん思ひつゝあつて人の惑とて
さう及と格一心術と自らせしめて聖人のたの言はるを
一 流槓の二級とせんやまの惑とを其の不及ひし其放
心とせめてあつては流槓の候とてまの考は書に記す
あつて人思ふ和解の書は候してあつたゆり願負して他の

学者とて一とむらうは思ふむらうあつては惑とて
ゆゑ人を其れ其れ人の惑と解して一人候やあつては
心とあつては獨知と候むらうあつては我をいかに
よるものも願負とて中をりまのむらうは九念を思ふ學
術せよとあつては何の益もあつては道に聖人の大道なる候
一 万流と流ひ一の事れ候とて思ふとて天下の罪人とな
せり願負の候一これより大なるあつては若思ふむらう
自らの思ふ書とわけて思ひつゝこれ惑とてあつては解
惑れむらうあつては思ふ道とて其れ其れ心とあつては
教へてまのあつては思ひつゝ人印に思ひつゝは思ふ
やと流と棄てて思ひつゝは思ひつゝ世の中思ふもの
むらうは思ひつゝは思ひつゝは思ひつゝは思ひつゝ

とまよふ弊生ももの也此世に二子の幸ふと云ふ事の益
はと取て弊と云ふ事人 同聖人の心も此の流とする聖經
をくしてかきあつては心をゆるかむこと一んおちかひ
と一 云ふりあつて中た力と云ふんもあつたり未だ
ふりて聖經のあつてもとゆる後多く聖經のいりぬきと
此世のつと流に解て聖人の流をり通して聖人の流を
會者の心ひ窮す一とて聖人の對一とてまつたつと
ゆるかふとゆる後いふ一親切なりととておちかひ
一心及同世聖人の痛も云ふ事と云ふ事と云ふ事といひ
さしとてまらま代おちかひ事也とのより流に流せん
不便なり也と云ふ事と世中の人學問と云ふ事と云ふ事
聖人の流といふ事も云ふ事と云ふ事といふ事と云ふ事 昔云々

君の必死を封へ給ふも同一様一人と云ふ國郡を流すむ
必死と云ふ一人あつて一人あつて一と云ふ事と云ふ事
君の必死を封へ給ふ事との一人とて選ぶことと云ふ事
まも不立と云ふ事とて流す事必死のまれ任なり國郡ま
をけむおれあつて生かす事との一人とて選ぶ事と云ふ事
子孫なくして流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事と云ふ事
まも不立と云ふ事とて流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事
内の男女と云ふ事とて流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事
これと云ふ事とて流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事
余祀と云ふ事とて流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事
と云ふ事とて流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事
と云ふ事とて流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事
と云ふ事とて流す事と云ふ事とて選ぶ事と云ふ事

その子の同姓のなまじいありし同姓を養ふべきなり古の法な
り周人の百世としも婚姻不通の法も同姓の親とをひ
つめて人の後とまじくは同姓なれば他姓とのふ
とも可也人の後天死の孫なり同姓ありきりいなりあそ
らく末代もつもの人倫とぬるなり礼と書て禽獸と
まじくをまじしめんをりまじくは人倫とちりい君子の教な
り小治然るる小人の事也小人小治とて禽獸とまじり
君子大治と書く小人まじくは政の小人小人人情風俗を中
に成りし人情と養ひまじくは天とけしをぬる聖人も之
年行くと成とありんせしとて仁ありんありぬる君子
入聲當り今日平の風俗と成り人情の安らるるを君子
たるもの人乃罪とまじりて天と成りひりまじりて天下の

風俗と習ふる中にあかきもの任りありぬるも人明君とま
じりまじくは法とまじりぬるも徳化のひりまじりぬるも
て術とぬるもつりかまじりぬるも孔子の命にゆりて射と
まじりぬるも世をまじりぬるも人の後とる名と知れぬるも
まじりぬるもこれ聖賢のありきにあたりぬるも仲尼の甚
き事とまじりぬるも人なりぬるも天の理とまじりぬるも人
知事とまじりぬるも極なる不仁なるも今日平の事とまじり
ぬるも人のまじりぬるもや孔子はまじりぬるも家語の
附會れとありぬるも信とまじりぬるも南とまじりぬるも
まじりぬるも人情の勝とまじりぬるも利欲の根とまじりぬるも不仁
とまじりぬるも量とまじりぬるも人れ跡とまじりぬるも變通とまじりぬるも
まじりぬるも法とまじりぬるも又ぬるも風とまじりぬるも君子の君子れ

大義とらうるゆとそつて九女を貞女と名けしめん
す羊に虎の皮とさきたる皮終くたどかさんといふは
たかそれはさちるき虎の皮なるを人の罪人をりま
虎の皮ありとも羊の皮と名を群と名するは
こまやうきと産る同くもさきとさきけし
ありこれに近けしは犯るあり君子の学は忠信と
文ハ所の中を

一朋友問云は知の学はよりとて下は名はなりと
なり儒はともふ自然なりとるは大方の知也 答云は蓋し
とも弊も又ありとるは徳徳とも辨しるは大方の
く管見とさきとて是見とまてく管見といふ人
くとも自然は知の学はよりとて下は名はなりと

一節一たりといふもいふも徳と好む人まきなり
自滿はいふ一二はあり

一学友問格物致知の心法は古者の經もかく
もんを傳へし子思とて祭明しはひるは 答云易の六
十卦を復しはてし格物致知の心法ありは
簡明白といふも一通りは格物致知の心法ありは
堯の舜の傳へるは執中なり孔子は顔子に傳へるは
非礼視聽言動をりといふもこれ格物致知の心法なり
曾子乃一貫と忠孝とやりといふも子思又孔曾の傳
は心と徳といふ一貫といふは格物致知の心法なり
視聽言動といふは肝要の思致致しはひるは 答云
一貫といふは土用といふは元亨利貞といふは

仁義礼智とまじく信といふは口を疾してとわれざる
之のハいすすしてま月あり視聽言動の四のこの思と
まこと信といふは口を疾してとわれざる
あり中人の下の字は善は人の善をたたく思と人の思と
おとふふ心なり心思躬行は人の善をたたく思と人の思と
吾人のふれ信と人の初也をより信義大體神はまじ
むつて教子のまをふ大人也思念の天也信來せざるの
まじ信吾念も又信來せず何の思は格ありんや志れま
月にはまじ信の初あり善は秋をまじ月ありて相も
之のをれ月といふて一年中のまじ年月日付といふ
終に仁ありまじ信の初也をより信義大體神はまじ
と信するに信の初吾念のまじ信ありおのまじ

まじ信するに信の初吾念のまじ信ありおのまじ
乃信來まじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
信來の大體とまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
つて信の初吾念のまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
ま吾念と須臾といふまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
信の初吾念のまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
い信 吾念の初吾念のまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
今まじ信の初吾念のまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
本と信の初吾念のまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
あり仁の天地万物を信するは信の初吾念のまじ信ありおのまじ
これより信の初吾念のまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
信見智と信の初吾念のまじ信の初吾念のまじ信ありおのまじ
問先生の

文政八乙酉冬十二月七日写之

中村直道

集義外書卷九

脱論六

一心及同く云佛者小輪廻とのい儒道小いとい目の茶小毛
出れ蝶と成て飛行としれは生れが心と云のも有らんう
養て云むう我友禪者も從て云坐禪者もの何のもを即
心即佛何の益有福者れ云衆生活物也とまぬも色は悟て成
佛を何の二度生成うを以て我なまを稱しひんを也と云ふ
見らんが花の根もうもと云ふが造化の真理を志すはして
まと心の也を心一根うて干はも万はおり共造化の無盡
形より心の也を心一根うて干はも万はおり共造化の無盡
と造化の氣れむ一心の也を心一根うて干はも万はおり共造化の無盡
まと心の也を心一根うて干はも万はおり共造化の無盡

化の理をあるは生生物のあり氣化形化卵化変化なり氣化
とのふ父母をくして氣中より生るるもの也新泥は魚の入る
れた魚の出来子の氣化なり其外父母をくして生るるにはま
人も初天地を父母として氣化を生し一りきてふ形質を後の
形相交りて生る是形化なり是れ物に形化を鳥魚の類の
卵化也雀海鳥の入るる海より生るる鳥の類の卵化なり是れ
ひの变化は变化の法とて生るるふれ見おふと生るる
化よりその其精神のこりて生るるふれ業程の中より虫
の生るるこりて汝寂滅とて生るる人智人を寂滅と作るこ
りこれより生るる得公をくするふれもくふた方我懐
て其非とあるは汝寂滅といふ帳をくして生るるは汝懐
て其感あるは綿入とて生るる飢と食をくする感あるは理と

ありきうて理不滅せんすは乃活物なる事と不知なり
一朋友を云坊はれひの佛法にけむにそめ公懸高して
次第に生る成信なるか存にそ言信なる者も也今仏
名に生るては信名のゆきり大海の一粒に生るるも生る
た仏若く成生るるも生るるも生るるも生るるも生るるも
信及れをこれら成也日本の高き神社空海書の中も賢知の
信は生るるのこりて思慮の鄧幹のこりて吾派のこりて頼を
禱乃角より生るるは生るるも生るるも生るるも生るるも
信及れをこれら成也言信なるも生るるも生るるも生るるも
一びく我友禱者も同く云今の淨土日蓮本教も生るるも生る
言く云秋家の精棟佛と形乃乃禱をり生るるも生るるも生る
ましく神とましく生るるも生るるも生るるも生るるも生るるも

此等一たり 同後世を常人にまわれざるの文學
あり若しとてなるとまきくはひふ下の事とあり一とせん
るあふ方と横目と也一世のわが法とてとまらせ又
いふも若の入道一なるをいふといふといふのひく
字方の物語せよとてくはひひるるあるは道とありと
ゆい行を也 云ひより學者餘多ありといふもなま
はまらざるなり成てあり一致をすし者といふもさ
るる中人の知恵を教へるの法なりひひくといふも
用ひし物とまされしとていふもまたなされしとてい
なり知恵を人への法と法との今ふりたるなりといふ
まてよれといふありて行なふもいふも教へたる
ありゆきもなれに唐のの勢ひをいふもいふもいふも

先ん事也又しは唐者の下の情と知へていふは行要の
るは不知者なり學力ありて道徳も志ある人の下は唐者
なりては汝の申すも家人情の不知のなり多くと民間
よそいふる地とあけて教代群の代をいふもは
よありて事なれは道不志をいふの民間をいふも
氏と法事なりいふも唐者なり世のわが法とていふも
は世のあれも大なる世といふもいふもいふもいふも
入道なりといふも人情よりいふものなり市井の若し我
はるをいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
害もなるといふもいふもいふもいふもいふもいふも
深愛なくよの道とありていふもいふもいふもいふも
いふも非なりといふもいふもいふもいふもいふもいふも

いともよと知し〜 乃たと指さす〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
くふと付てまひさし〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
罪を〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
うん〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
い何とや 云秘するやも秘せりやも主意餘多可(け)し
いせ城〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
ても秘す〜 成行書多〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
下も根を〜 書成行は法を〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
各所のをよりひらむも多〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜

のそあ〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
秘するもありあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
のそあり人此嘲〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
小書紙あり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
り〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
れり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
軍書〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
を記〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
る〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
と解〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
其言と秘〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜
天乃罪人なり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜 一とあり〜

てひかりをのこすところのむねの仇をとりつゝつゝし
夫を好書も出づるありしころのむねをいはずしと半とふ
りれり江の字流とて吾字を記の者たるより小説ひの
めく異端の扱ふ成るあり世間まをの字術とあり
され罪一人のゆりゆり罪一人の江の字術のまをひと
解す二も世間の端あやまりともひさきなむあまりに
人情とくくも害とかりくにせり 云あり愚か
なり書も吾字不文字の者右利丹はゆらぬぬやとの
益の成りしと此文明の運とるゆき二百歳の後の文学
盛なりしと吾書れらる人もゆりしを二十年前の
即ちゆりし今と経傳とる人のあまの用をいやり
きく吾字の者のあまの用なり

一 学友同びりしより信義公変きくとの法あり今分物と
りてわくくたれをい換るを初まりかきまきとの
ゆきそのありのありた徳の善悪是非はゆりしは法すき
事なりは也 云理局といふは徳をい世の勢といふあり
あまのむむりしより信義公事きけむらた徳ありあり
西あり天下にたりる天下なりしと今も金銀米穀は天下より
天下は人のあまのけしきあり一人の私をいあまのけしき
ゆりしは徳をい一衣紙着は物とのけしき金銀の貪賤
富貴の命よりてあまのけしきけしき代りて徳はけしきありあり
ゆき今日しる有るしと明日の人の相をい天下困窮又
あまのけしきありありの初まりをいけしきけしきありあり
たゆりしをいけしきありありてあまのけしきけしきありあり

一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...

一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...
 一はく... 一はく... 一はく... 一はく...

のをれい少人の情と世の務と知るる肝要なり

一 字を同建康より初く得た妙奇物とききつゝかむをりあり
また元祖の教と神通妙用との相付をや 云是も其國
人よりてかつれがた珠玉なりとつこし人々之を三人の性
質うられし教也の大意大無の心を以て衆生の怨とやり若く
なき一りんす切あつるもの故かすつめくなり方便ありこ
れ天竺人の愚蒙より後世の佛氏奇物といふ教也の心を
差別なり人より信をききむしむりふなりとこれに在んこ
れと利公なりといふも教也といふ利公なり一教也と中國の聖
代教也の上世も後一から佛法とらんてふ心を以て一
達磨も中國かて智學のときこし一何れもよりしゆは直括
人心見性成佛乃者と教られりなり一 聖教神道として

よく信する者も我仏法に入りむの我心者なりす同
一法とも日蓮の他宗とてしるす我宗に入りし淨土
一向より此教と非し一已とをききて淨土といひ妙法と
いふ言れりありいあまとも其教執礼行の務者なり一利心のとき
しき一をれをなり 同後世とのひくかどくすい悪人のわざ
まゝなりん 云天竺のさまあらん昔人の成仏一悪人の地獄
よるいひしとせあそ可なりん今淨土一向日蓮宗の教なり
悪人も教也の淨土とをの免い成佛といひしなり一これ
吾と違け悪とをしりなりあるれも人とて悪とをきし
ひるひありしとされし教也の天竺より人皆固有して生れ
故も悪人といはる事とありしとあり今佛法の教とて
は天竺の蓋明と濁りされし猶も其教も佛も佛とていひ

佛法の教をくみ今よりなまめん
 一心を同世帯に導かす此人のせぬるは何ぞや 云凡俗のわらわ
 けのめをより玉代も天をりしむる程の神意と所しめい
 て所力とともなわれは智仁勇の徳ありて天下にのそくは
 己のそのまをいしめしむるべきあり 切實院法皇院持統院
 孝節院の學校あり寺後園司宗廟の人々ともなひて法皇
 教のめをりて國郡しりとも學校ありは凡とくうふあよ
 たりひし王者の威をりて武人衣冠をなれり武家の代をり
 て後人武の教子の道なきとも争闘とあらむと欲して
 せんともさむるに教の佛者よりさすせり佛敎の徳の
 人の徳とやりて善徳なきともいんとも其況王道のふあ
 とつた少補有るは似たり近來人の若とて一と徳とあり

ひととはとありす此家のゆり甚なすて教を深厚なり思
 うらうと何分まとい武士より若令銀米穀の半利得のそ
 乃より料理をなす 志願志言と能とて文武の二道なき
 されしや 一とつて法皇院法乃ありは馬のとき代
 代の名將勇士の地よりなきとも今この武士の地よりい
 なき人の今なき 文字の儒教坊のとき 一とつて法皇院
 公家のゆりしむる武勇の武藝ふりしむるに衣履飲食
 家庭法をいふ美と畫 酒色よふけを用きしこれ
 トとくはめ氏とむるものなりと成んともなれりなり
 せれはありしとつてのめありのときとあり人オのとき
 けりしむるなり

一 学友同書を撰言撰紙なりしむるは何の教ぞ 云儀義七

てちひふをけし明友の道に任かり日くは相言を以て信と
信に任をきき也事ふふちひふのむもいひき志願ありあり今
相言と信せざるにこそなり君は義を考ふよりて相言と
信せざるにあたりしむより相言の上は相言と信せざるも
有まきそのをれ入其ふふをわたり後日あるに相言と
信せざるより相言と信せざるなり故も相言と事
せざるより相言と信せざるなり故も相言と事
のふふの信も入まきそのなり申公は信義と云んぬ
も故も人より信を求めずなりちりて人の信せざる
人れざるひふれざる也その信は信と云ひて相言
ちひふと信せざるにちりて人の信せざるに君子
事なりて任をきき信せざるにちりて人の信せざるに一言の約と

多ふ自欺なり則天理をまじくするに天理をまじくす
る則神罰ありいんをれ鬼神の福若禍福なり
吾は仁義礼智信より人をりて一也五帝とをり
を信より先をりて

一 仙名同程子云老子曰非認明氏將認愚之其不自賊其
性矣佛氏亦云智愚と教せく邪也教せざる
地獄に入ると云ふこと二律と日蓮一向の宗門其言かり
けりことそれ思智は佛と念やめり明處をたれ老
佛と相言あり云程子の老子の主意と察をよひ
肉ありは所のむ老乃費えよりていふをる也一 老子
民と愚痴して禍をききんをふれせむ技巧の知
利害の謀は可惡の源をれば源と云ふんと技巧は謀

正しき井地とて一地形乃井田なるをみる所の貢法あり
貢法の井田の形とてよく実ととりしるそのをり井田の雲
土とまりなるをり故に井田此なりかたは地形とてをきく
十とて形とて先井田あり共さうり井地よなりかたは
貢法とてよるをりなる事ありて善用法は
よる事もありとてさうりいさく井田の正しき地形は
西を記しる善用法は井田とせんよりの実とて貢法
とをきく一日卒のいり貢法をりき故に其名残を今
と年貢とていふとありとていひ貢法をりき士民を
軍役民間よりせりき故に貢物十一也とても角不足
か井地は一家と一姓と一死を相傳ひ疾病相助を患
難相とての軍津あひはけりて一人すま一人ありて

くも八家一人れよとのあひをすくふこと貢法の文と一
紙とす四用軍用備とて文武車の両輪はとて農の
いふ小意とて学校乃政孝節忠信の教ありて五倫和
睦一礼樂弓馬のあもいりて風俗教をり風俗あり
寒暑をのきて力神とてをり山野とて川谷と
をりすの農の害と除て武事鍛錬せしめをり
故に軍士農兵よりはたさく農兵とてはたさく
く十乃貢法はのりけりて法世の士ゆゑも小民困窮
をり軍國の士民相和して勇法をり戒めありて慎素
有りありとて今のをりはとて賢君良相ありとも
做らるる仁君相継せりけり業とてけり統と
とれ士民相好むにありけり法世永久なり

一 舊友小者く云々方戦國をさうれ何の用ももさるが
武士は名をぬすく知れぬまむい美方達をさうく一舊友
夫と愛して云何といふ言さや 美方家内の者もあれ
となく或は不道なり是と取く軍用達す師とさうと
知なり夫方常山云事ありは約下人けして二十人あり百
姓ととり出して取と二十人分荒懐ありと大坂陣時取
陣のやうなる事なり小座場まも依はさうい二陣の
天下一目の所を教をく一城のくまといおれ百姓もれ
主人地取とあかりうつくと報るく多うりれ為小衆
の末れ取と馬氏家れ中流よりおれり上れたるあり美
方二十人の若我場へ一人もあさふさうは物目あり代
とさういはさふさとの幸に公剛さう一人も依はさうさ

一 よめあつ小座まももれ若ありしあつと飯かくとのさく
小座とさう馬とさうとのさく勇氣へく公幹つとさてす
すむるあつとさうさくはさく是損さるさく何と飛くさ
さる若ありしさく小死とさくはさく歩約一人武者乃勇
なりこれ死をいとも知れ盗ありさや歩約小常小法
事とさうあつとさ力病より是はさう美方を越候はかり
さう一人武者とさう約は彼歩約のさうさくさくは
誰若とさのくさうさうさく一心中にさけた歩約乃約
あまてゆく事なりさうはこれ若とぬまむいあつとさ知
れとさう一人多言とぬまむい一人若は若せんあの
知れさうさやあまてたをたうとさく若の大率れ用さく
さう今乃若候は不忠乃若なり

一 学友云今の世の武士乃情の民よ不仁なるを以て其道を
たりし仁方りと其たと不得とを角く民を憐
あふ人何とて大よとあるいかりて慈悲を以て百姓の
知くし家中よかろそをりゆあは百姓の目小走し
こあきけつ百姓の留て者とのひ鉄鎧凶年少く氏より
たふ交ありを么とのそびん男女とをくん治まら給分
うんたはつんといもかごとく老とをくを食せて子を
わきとんとも不使といをを國を那に仁君よてう人と
助き給ひもいまうひ方根とわり茶と食ふといもを
食ふ出ふとのんをそれ百姓たまきりあきともをた言ふ
そははくいふといををり民のいれあはるるの末を
かふくまらるるしきのふたまて曰く一様は百姓といく

一 者も初めの代を成く目よりく民の困乏を
ていあられむを出来てむくれんと家を志つてた多くは
侍軍給以用人の辱にぬくまれぬいあはるるなよ不使と
いひをくも是非入情ふあはるるこころい 云近年も
民の困窮きままり 云歳をや凶年出来ま君國を
失ひ家中の者率へ 難救なまらあり若救國を
かへ八國七の事よりうの後日米百姓よをきけをり
共うみれば後とあるい今のもま君孤をて 一もとむ
妻子に難救をせきあるをを形ひ思のむなり武士の常
の祿あまはをく凶年なりとくも難救なりといふを
少く鉄鎧よいむらひ百姓凶年中幸表して作ぬる
ものとのくも年貢より後共にはるるはて未進

よもきくきり者親の仇と知りて殺家人をいふ百姓と
之をけ俗に僕使人としつる者のことなる者多し一用也
をくまひせりともなり君のこゝに國家のこゝに害なるものも
知りてなりて^{きり}騎恭なるあり跡なきことありしとも
氏間よりあはせ居るよひにせりともなり一軍人をれ
ましてわらうともなり一主人かへぬくゆひともなり
かきり成るこゝに居るありしともなり一ありしともあり
同く候より用ふたりなる者あり肝實も有るかへりともなり
一國二國のこゝに大勢ありし一云君子の天命をさふ
我より改下しといひやけけけけ君なるかへり不徳よりなる
そのなり君より用ふることはけけけけ用ふるなりとの
も親之親の仇とせり一なりし居るこゝに包荒の仁をれ

よも其僕使人のことなる家人百姓とせりしりし教か
けきいなりし王家の害なるものことなる一昔人ありし
奉用也

一舊友云彼小人を多しけけけとせりしりし教か
けきいなりし王家の害なるものことなる一昔人ありし
奉用也

と記しあるはうらや

一 学友歎き云藤樹の学は陽明流の学くつて未學に
をよりをたれは乃よせく人衆一ありとのた天下の
公地よとひく藤樹の学く稀しと教百人とありの切若
あり又法衣の國を行く藤樹の学流く号し争遂
れず世をうらと二三ありありと云ふ義の寛洪何の
らありと云し一と云ふの学は教をたて國新を其故
と云ふゆゑ不知人をし一これ何の罪ありや不孝を孝
と云ふなり不孝にもたれと云ふなり一は笑しなりあり
れ世の塵泥よりて教ふと云ふ一あり君は法と云せはく
此の学と云くはありと云ふ教し一同志の流方と云ふ
て二十人よと云ふは此の学と云て世にあらんとれしなり

者を一ありありは罪ありとのいふを云ふなり一と罪をた人を
くくは何をや 云平佐をほむるをくしと云ふ一は
不徳漢字にて南村よ人は用らと云ふなり一と教を
相長と云ふは法よ不徳く徳よ入るなり一と戒めて
法と云ふは法し一此の学と云ふなり一と云ふの意
をり一と云ふは意をきくなりと云ふなり

一 一ありありの人云ふは藤樹の家屋をたよりと云ふなり
のしと云ふはく氏と云ふなり後世の年をたれと云ふ
なり一用しと云ふは氏と云ふなり一人の持持と云ふ
或は其物成切本と戒めかして其方の藤樹常と云ふ
ふのしと云ふは一門他門振作は其あり國郡の自
れ云ふは藤樹と云ふなり藤樹と云ふは礼用軍用

備有と第一とともありて是と八月の私事とあり
久しき月一と道人との宴合と飲食と服家
屋敷物と月の法のとあはれは必と云候とも二万石
民より取り去るに候はれ民間に因窮し流
浪人年々に多し人と扱はれし禄米を減し民
飢乏ありありと候とて一程のさうかどり
食事もとるべしと申すも也和しとあり
と義公のありぬ

一禮の法國平天下は六月なり礼部よりふるはれ礼
ふとむ後世の人を礼と義月とてま徳乃か
くとも礼のとのとむとてくめてま力をかもの
あはれ礼諱日とてかろへて相あふふなり
礼

昨これより大なりなりと夫よりお家礼夫とたつき
人よりお家礼夫とあつきなり一分と利を授け一分
人と損と人の悲はりともつあふ人いふなり

文政八乙酉冬十月九日夜写之

中村直道

集義外書卷十

脱論七

一心友同帝克許由天下と也修らん今志修り許由ハ世を
をれ其治道大簡をん親の喪ととせ一祭とを修め
一棺槨をかりて有略をる一聖人の禮儀政刑を絶る
小近うらん又世を思ハ聖人なることハゆづること更て夫
トと修めんと思ふんごふわうハ禮樂政教を聖人の治と
かりんきう若云禮儀法度々聖人の糟粕をるこそうとと
言く神聖の志と不知と久一誠をてんを禮文法令の
次第小知り易くあぐ立つことこれハ誠なり知者の情乃
まゝ小く禮法よりわくこれハ情素よりてわくことと
一誠よりて求む一誠を一氏集り金珠珠玉惡物とた

うらむせられけりしをひらきふとのなくけりぬきや半はし
矢と見えれを夷狄とまきしむ物歎の害すの物をたれ
天よあふねせりあき上せれ聖法也帝光をたあのお法と
歎ぬぬぬり許由とあり

一心友同を乃学者のつひ貴光の道学を光在りた近
法を道ふあひひくまを法をいひの法乃とあり
まとのあつ共格法の中道まのつ馬をのま光を聰明
乃質なりふ天福の流終ふあつま也我学よ入し世乃
即ちまのま人なりこのも也 昔ままふまかなるひん
也今乃本学もあつんよて後せり道せり天下平治をな
何あつんまきし道学を信せり人あつまひ
やがあつた者なくも何ま半ひけりんやうなる取非な

うらむ入むむをうらむのこ見のうらむぬぬ人何
そとままんやうなるぬ今乃王学本学格法をくひ
そのひまど一流の学まのう後世を今あまをまなるも
其流も悪用する人の集り福永律儀なとの世もあま
かく法國中天下のあまをくしと一國の世もあま
こ一用行りてか害りる一多用ぬる大か害りる一
う学を格法よりん所を大簡めして在光の流もぬら
政教もやとこ一こ下小用を付る水云はるれ道ま
と一王まのうもぬぬ法とらんうをまぬぬ
ぬをぬぬぬぬ其人と待り
一学友同とびまうお佛法の徳也かこもたぬお時あ
まきり 昔も我實の仏若もかたりとんけりぬぬぬぬ

高きうたきく仏と遊方とく助立方の魂とありてこれに
者乃不仁と偽者の理佛となく神道とをみすなり一
也その中又佛法を水とよみ小知ありて佛法を水と
真せども是れ欲をこころし佛法を水とよみ小知ありて佛法を水と
つくり偽たおこころし佛法を水とよみ小知ありて佛法を水と
おふらふこれおこころし佛法を水とよみ小知ありて佛法を水と
りおふらふ高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく天地
おまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく天地
利支丹を後生れども是れは信者おまきく高きまきく高きまきく
仏道おまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
今の偽法天下おまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
古利支丹のたきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく

徳とありて一と代り法令とせんく高きまきく高きまきく高きまきく
うたきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
れと民乃偽とありて一と代り法令とせんく高きまきく高きまきく
りきん人歎生かそれ法と人歎の地と大河のやと
く高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
うたきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
力乃命とありて一と代り法令とせんく高きまきく高きまきく高きまきく
もつこく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
地ひらとありて一と代り法令とせんく高きまきく高きまきく高きまきく
物とありて一と代り法令とせんく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
氏大とありて一と代り法令とせんく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく
あつとありて一と代り法令とせんく高きまきく高きまきく高きまきく高きまきく

いふ所を... 免喪条乃乃不用とほい申て歎とゆせき
身り其所を不積文のついでといふるありき
事つらき後世より政治道とまひて人心平し
さるるよふ河の宗不願申して此の物とせざるす
貴賤分といふ事士氏まの事あげくといふを
其のよき歎とるべく情うすきをば其國より
をふれとて其の西よとひてとや近身を榮本金
成ふ姓よりなき事して人病氣を孰かれ也其
小家食く世る事なき事して大の上世り法は
んやとり學者が力に富ていふ所のりる武士の貪
して朝夕のいふ事なき事其れとていふ
免んる扱力事となされぬ孰力のまゝあり

事となさむけられざる事せしむるおこるる者た
かたり大徳の... 衆乃たふふへさるる也
五倫の五徳十義あるなり一文不遺の人といふ事
を學者は治りたりとる天よりくふれなき礼は
これとてよりいふ事と助するとの也時礼位とるる
衆となふれり心々天塔ありま道を生民のため
まるとりりの時周乃礼と用く道と行んあまの
自じ乃礼儀のれより行るる其より富といふ
孰根とてはる若とあり各根ゆとて卷れと末免
をそ者とありいふ人といふ情乃ら其事天下校
習をれば人といふ事なり其実とんれつとていふ人
よあるる事あり其やい治るればをいふ事

あれと此格法の流とせよとせよあり半ありしに
とあれと世の中もさしおのり人あり各執儀の道と
よとありしにこの也ととわさし情のこころ者あり日蓮
宗とあり高橋英風を若し禪宗とありしにありし
ととこの朱子格法を何と云ふか流を流と云ふ
日蓮宗ありせよとありしに一流と成りあり人のみは流
行者と云ふにむと甚しとありしに却て行者と云ふに
あり佛者の戒律の天瑞なりと日本に水と時節は
夜の如あり朱子の道と云ふ事ありと云ふ水と云ふ
事あり其とこの朱子若し聖賢の法と云ふに
心乃凡情の小人と同一者多し此のを知る衆とあり
近しと云ふ行者ありしにありしに近しと云ふ

同日なりと云ふ近年の朱子学を云ふは是はる書ありし
讀ゆりしに實に公道の道ありしにありしに
乃文と云ふにありしにありしにありしに
儒者の方よりありしにありしにありしに
とありしにありしにありしにありしに
法と云ふにありしにありしにありしに
盛なりしにありしにありしにありしに
りしにありしにありしにありしに
喪祭にありしにありしにありしに
故に實に信せしにありしにありしに
紋法にありしにありしにありしに
公侯大夫ありしにありしにありしに

夫は内外あり名実なく行者をわづらふは内がなきことあり
とん能ある士と心骨一氣つて是賊をくはして是れをく
物とをばむとこれ一なりは法もふ入ぬとハ世あまの
譽を〜この教は高き人へふは道へ入と偽道ハ〜介
切きの事とをうぬと〜世は明君良相あると〜何運の
おとつえと奉〜人氣の骨〜と〜情のうすこと知
賊用の不足〜叶と易き法と作れ〜誠とま〜
右の質素は風と〜一高きと〜と〜世は
道小す〜心ゆ〜んが〜時運と盛〜たる〜人常は情も
あつ〜賊用たる〜何所〜及〜後の君子と侍これと
志心〜す〜其人〜あ〜ま〜人信所愛と〜う〜有徳
あ〜す〜と法〜と高〜と〜た〜つ〜と〜世のあ〜た

我たふ念をぬすよれぬよ〜〜〜〜〜
夫漏のすた〜神〜き〜〜〜
何と志ぬ〜佛者と志〜せ〜
一偏者云我を俗儒と〜道とわらぬ〜
人より〜〜〜時道と〜
釈〜〜の〜〜
情名利乃欲た〜〜
子ゆ〜〜〜
〜〜〜
氣得つ〜〜
ゆ若も〜
ゆ若とあ〜

九丈をれと親存のりたるといふ一乃孝なるぬく奇物
なり若もこれいへば後乃かきまを正志の学老よりよまは
とめて及もこれ知をり申す妻とつと先ん若なるといふ
たしゆをこのの上記をいひたり又氣候いつとむる若なる
ねとて仕年乃氣力つた時志乃大よすんて何の事とな
すべし取量れ若のりて世若年うるをなすといふ
一心な同貴老うぬ親の妻といひ先んと後と母の愛を在て
々其まきうひ妻のなるといふそいふ一乃若あり
若まきのいふ人といひたり申す若のいふまきとつとむ
ご生れありてはれと仕年の時をいふ少いといふて及年
もあつんたはまきい病氣乃為とまきり年をいふ若もこ
うりといひていひて若ありてはれと妻よよる

おとあつんたは子細ありとのまきといひてとる事のみ
きとま人は用ありといひて也とのまきい申す妻の力な
れは又母を以後の妻なりてはとけ一庶人となりて志つ
くまきりて徳と妻のいふ其のい初学の時より人の
昨とをいふ字記乃を記といふ各一内はまきりて後
徳とをいふの扱あり倍かされて知人なるい経路のい
これ内はまきりん事と記す也申す本名を記する若れ
世乃名記のい妻よおつていふ人といひて申す一
人の武士なりて字いこつたりす也の字業と記せとて若
りて記す一申法は病て妻といひて記すは内内外
せ一今といひて若はやうと記す一記と記す生とて若
大不孝也そのいふ十小傳より先んといひて先んといふ

とをなすに時をくはたせ及行らん而も十年をく
中わく病氣をくく來とて老を致さず者有りた
くくくわいあやまりて勅免かるるをあたふのわざと
是をわふふやむとて度量をなくよた心なまるとな
元氣を失ひく後生せしむる所也内外なく志實
かりなきわくくもあつる事也且平先之道なき者か
くくくくくくくも氣憤変化の原をあたふねる實の
平也かかかかかか因志の中はれけり而も板群あり
人あり其まじく候こと來とてむくくくくくくくく
氣力のみを原而乘よるれ志を先はれ今年今の時と志
うん又漢言ふよりていさごがわりわりまきす福徳の
くくくくくくく一人もはあをいさごがわりまきす福徳の

ひあをくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あはんとあはくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくく二十歳より内はくくくくくくくくくくくくく
以後文學とけり免唐よりくくくくくくくくくくくく
腎水めくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
候みくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
いりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
水紙子とめんぬくくくくくくくくくくくくくくく
書を存りみくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
事とけりくくくくくくくくくくくくくくくくくく
の極方に強弱ありくくくくくくくくくくくくくく

年の盛衰といふは時勢のあつてきつるよりのほかに人の
情のすく智其く愚ありてなりしむる時々の端と
なり飛をき人よりのつるきよのともんかゝる病氣光
衰の後の憂あり其の多年人情時勢を知りてなれり
人といふもの事もおもむる人といふもの事おもむる
人といふもの事おもむる人といふもの事おもむる
生計ありてはつるよりのよれあるべし長しき事とて
人といふもの事おもむる人といふもの事おもむる
おもむるもの事おもむる盛衰なり一時に年九勝と期し其
よれありてはつるよりのよれあるべし長しき事とて
水空にほりての教也上せとて日本におもむる小曲の生も
ら者いづれかすし一問一答は一回一回一問一答の

こと大國の人よりのよれ

一心友同佛法の易簡なりれり日本におもむるは作也
兼約也こと大國をよる甚不仁なり親の母と稱すとも
目のあは縮とありてやうよれあるべし 昔云あり
これをも我をよるはせし佛法の流世俗の習ふをよるは
せしはづりす又その時ひつるよりのよれあるべし 昔云あり
せしはづりす又その時ひつるよりのよれあるべし 昔云あり
方七つ何の城もあけず大に中へ腹を切死して死するは
きり敵の手よりつるよりのよれあるべし 昔云あり
何ぞお物と必しせん上せは地廣く人をよるなりしむる
は敵物をよる家屋をよるなりしむるは地廣く人をよるなり
よるをよるは地廣く人をよるなりしむるは地廣く人をよるなり

一、人死るるの形、棺ありて、魂氣は、あられ地、腐ぬ氣の
 中、ありて、天のゆき形をとり、今、此の帝也、何とて、くろん、後世
 是物、家屋、いつと、こゝろを、死とて、くろん、棺あり、擲あり、こ
 ろ、こゝろ、今、すう、の、理、を、ね、を、死、に、事、を、こゝろ、せ、ら、ふ、事、を、い、ふ、こ
 ろ、を、考、子、の、情、を、う、う、考、ま、り、ふ、生、と、死、に、一、案、を、り、小、死、を、死、と
 死、生、一、を、り、考、ま、り、ふ、こゝろ、を、理、の、常、也、を、ね、を、別、と、な、げ、こゝ
 ろ、の、情、也、い、ふ、こゝろ、を、死、ひ、つ、こゝろ、を、な、く、用、を、ね、を、之、情、を
 也、棺、を、棺、と、作、ら、し、て、や、ま、る、こゝろ、を、世、の、こゝろ、に、棺、を、な、ら、し、め、死
 解、あり、て、こゝろ、事、を、知、ま、り、こゝろ、後、世、に、人、の、多、か、る、ふ、ち、こゝろ、ひ、て
 ち、死、せ、し、て、用、た、ら、し、ぬ、が、り、ま、り、て、實、を、さ、ら、ぬ、一、常、の、者、の、考、ま
 る、こゝろ、を、棺、擲、と、作、ら、し、て、な、え、ま、り、考、ま、り、死、や、氏、の、常、の、考、ま
 る、こゝろ、を、棺、の、考、ま、り、こゝろ、ひ、つ、こゝろ、を、考、ま、り、事、を、棺、の、事、と、考、ま、り、こゝろ

主、考、ま、り、と、考、ま、ら、し、て、こゝろ、と、い、ひ、て、先、王、の、道、を、行、な、し、て、ち、こゝろ、不
 知、也、其、事、と、不、知、ら、ぬ、は、時、の、位、に、あ、り、て、ち、こゝろ、考、ま、り、道、を、と
 ち、い、ふ、こゝろ、に、目、を、い、近、世、に、死、ま、り、と、百、の、考、ま、り、あ、り、ぬ、は、
 死、せ、し、て、用、た、ら、し、唐、人、の、事、を、い、ひ、生、を、考、ま、り、死、に、棺、
 を、一、入、葬、を、い、ひ、死、を、い、ひ、大、葬、と、又、時、の、つ、い、ぬ、は、
 考、ま、り、大、葬、の、位、に、け、こゝろ、に、近、世、を、い、ひ、今、を、死、せ、し、て、事、の、
 あり、し、氣、運、物、を、い、ひ、こゝろ、に、こゝろ、あり、時、に、法、を、い、ひ、こゝろ、に、
 一、り、大、葬、と、い、ふ、可、也、と、の、時、に、考、ま、り、法、の、信、法、と、唐、人、を、い、ひ、
 仍、ん、で、い、ひ、賢、賢、の、君、を、い、ひ、こゝろ、に、時、の、つ、い、ぬ、は、唐、人、を、い、ひ、時、の
 今、を、い、ひ、不、死、を、考、ま、り、風、を、い、ひ、こゝろ、に、考、ま、り、唐、人、の、考、ま、り、
 考、ま、り、こゝろ、の、時、に、人、の、王、高、の、考、ま、り、み、を、い、ひ、考、ま、り、用、を、い、ひ、
 何、の、こゝろ、あり、と、有、存、あり、と、い、ひ、葬、祭、の、礼、と、考、ま、り、也、一、問

とは生る親小象肉多と食せしめりて親食と仰りも不可
 也疏食の仲小唐てありりぬ環物と求るも不可也 問世若凡
 をしととせしむと已う好む如く計しとせんとするの如き
 事ハきとるぬ日本乃神道とて松松と用て宮社に依りて松
 と用て檜榔小仰りともえ仰りて大葬のりひきし佛若を
 大葬と名ぬくしむしむらよと起れい志のひきある若の葬
 ハいぬしゆんや 昔云神書に松と檜榔小仰りともありと
 上世松木法いよとかるくやよりし何の事也とて士以上
 又い貴家子慶命を食くとも二分三分の松と用て檜仰りとも
 かりぬし其目とて若の若ハいつそ及ひしや大葬小思ひきり
 者むじつと用て成とて自足の形とありてとるむしむは可也
 問若の若ハ松と用ひ食ふ若むむしつと用ひ親小若とす

こも食にといきぬ事乃根とて言さう 昔云松とてし
 光とてうみもをる下一松とて家のくをりし生り河の飲食
 衣保家屋敷物取よむまき富貴貧賤命是なりとてしむ
 しく此也形とて今なり事此の常也志とてく檜小を
 孝子の松なり松とむしつと何そ其なりん昔日本ハ地
 せしむし教に近法とて寺をりし流を屋敷とて行り富くた
 ここのまき一百年の内介とて人をもりしあもりぬとて朽
 て平くた其後の憂をきとてゆりた

一心安んを先男とてりしめりしゆりのひきし中は民を其
 理得心をくも男大と戒られなりしゆりありと若何の事不
 害なり事よとてゆり 昔云松成とてふきのひつし松も成
 とのよそゆり松子の松とてあきかたのよきなり少人の云とされ

も是又男夫とほしく戒ありゆの佛書小見えらり佛立世の
時ありとほしく名や高直小戒られまもたやむ海のあり
りたてうこしおてハ孔子の時代も男夫ありしと見えゆり
ちままりも久なるも見えたりあれも戒りあるれば人
有方論とすし行は周子程子朱子などれ時代ありし
くまらんきりしと見えし一也物せられおととさうて
人情の寄のさむしと見えし一也人徳の徳の徳をた
せしと見えし一也孔孟の有方言とすし一也たまはりの言と
あらされ是建法中江氏公若乃言ふあると男夫ありと
壯年の病をれれ一いし一人情の愛ありめいし一也
しと見えし一也後身するは手くありしと見えし一也これ中江氏と物といひ
中江氏中江氏其理得をくし男夫と戒られらと見えし一也

中江氏とせんよりなりしと見えし一也自我の徳を
うんや中江氏と見えし一也後放散し趣へる人、其男夫といふこと
不義なりしと見えし一也其は命とこのうをくしと見えし一也
おとと見えし一也やしも有るふしと見えし一也其唐と見えし
あるゆをくしと見えし一也早業の法をひしと見えし一也
を用れる也と見えし一也それ事のはいと見えし一也
本とありしと見えし一也其実と見えし一也中江氏と見えし一也
せりゆふ世も小達しと見えし一也此学流り大禁をくしと見えし一也
て英文と見えし一也教をくしと見えし一也此道学の流行と見えし一也
志あり大禁ありと見えし一也大害と見えし一也大道の約りと見えし一也
の流りおくれと見えし一也小戒といふと見えし一也其は
と見えし一也男と見えし一也と見えし一也人と見えし一也

こまふよあましく男女をよめせし佛者と区る所の道学のあり
せんときりあせんとおせりせよとくひの茶末の常にある
もの二家のよふ大和とまきとくひあゆみせりてふくひ
いふとありといひいふを破つて幸よかばの時もほりし
せんきくせんして幸になさば可也 同くくひの男をく
ゆいくくろひにせんすくろひの事也世方の常は海
をて害する人なかり 同男をくくろひ道学の害
あるのありと云ふ 幸よめせしゆりていふせんま
あつてくひくろひはく明のせりありて道とさひさるる多
夫とぬめり義経義貞をよの教といふるれば其明と
は学を用ひくろひは人ふ大和をぬめすくろひはめは才
知あるとくふくは病あり其ぬむとゆつたかきくろひがた
すくはく明をよめとせとく道とさるる所を大和のあ
さくろいときりくろひとくぬせくくろひくろひはく
つとくおのれと知く格とく一言の格戒と用ぬくろひ
夫大道のぬめりくろひの徳人作て道へ入る先なりはく
くろひは美大これ人の俗はく道とさるるがくろひを成て
不義とくくろひのむろとく外より逃けくらむ其人を
世に類多く味方ましくその学考りのある一流のありし
おそれくろひのありしとくおせりて教をなかりては
先ふくろひをぬれたりけり小戒とくくろひのさるるをぬ
かぬありとくくろひのくろひをぬれたりけり又一人は親とく人
あり道と信するくくろひくろひはくぬれたりけり不知人は何を
達せし中世はくくろひのありしとく男女とく甚不義たりとく

すくはく明をよめとせとく道とさるる所を大和のあ
さくろいときりくろひとくぬせくくろひくろひはく
つとくおのれと知く格とく一言の格戒と用ぬくろひ
夫大道のぬめりくろひの徳人作て道へ入る先なりはく
くろひは美大これ人の俗はく道とさるるがくろひを成て
不義とくくろひのむろとく外より逃けくらむ其人を
世に類多く味方ましくその学考りのある一流のありし
おそれくろひのありしとくおせりて教をなかりては
先ふくろひをぬれたりけり小戒とくくろひのさるるをぬ
かぬありとくくろひのくろひをぬれたりけり又一人は親とく人
あり道と信するくくろひくろひはくぬれたりけり不知人は何を
達せし中世はくくろひのありしとく男女とく甚不義たりとく

まき人ごころの心算一む甲これなるの心算天竺家
の心算の心算より風俗の心算一む甲これなるの心算
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より
心算より心算より心算より心算より心算より心算より

語と云ふをこそ一君父と云へる一人の妻子と云ふはた
り不義を云ふ何れ其者の語と云へて経とけり人や
と世間小姓を云ふ存りては男を云ふよりてんを云ふ
なり耐を云ふも云ふね一これよりて又云ふ者其心算
と云ふ一めたりの事なりこれをも命と云ふ代に
久くやゆき方ハ壮年の精氣は多く快楽をせん此の故に
法度外の男は君父を云ふを以て不義と云ふ大方世
の法度と云ふ道の知者信者なりと云ふりみえたりけん
此用心と云ふれば也故云うるは男も女も人をも云ふ
を以て云ふはも云ふる今口角の学方最と云ふこれと
多んと云ふは君父一國一郡の君主を云ふは也と制禁
行を云ふ其成也これ伏せりと云ふ下も云ふのありし也

そのことなる言術といふは、昔も今も時と移らざる外、
ハ男色と好むまじく、遠根とて、まじく道学不敬
を、うらん程未だ、まじく、此れ制を、居め、うらん、と、知て、黙
を、ひ、ひ、ひ、と、今、の、時、は、制、と、肉、を、な、れ、外、欲、せ、と、可、な
う、ん、と、男、色、は、制、と、な、さ、し、た、女、色、は、と、ひ、く、不、敬、の
礼、あ、ら、ん、と、也、り、れ、十、八、の、子、は、と、妻、と、相、た、り、二、方、由、小、精
力、を、な、れ、或、ま、乃、業、と、な、り、か、く、才、智、を、り、と、思、得、の、耶、
か、り、若、り、一、は、な、病、氣、を、成、く、一、は、む、す、一、也、一、と、妻、の
ふ、と、叔、家、と、い、り、久、又、な、年、を、く、て、歳、を、な、れ、子、孫、の、長、を、
と、の、は、く、深、く、お、か、ら、と、い、ぬ、あ、ら、ん、と、な、り、と、父、を、な、し、妻、を、
な、し、叔、と、存、在、一、これ、は、あ、ら、ん、す、り、あ、ら、ん、と、成、て、公、用、軍、役
を、な、し、た、あ、ら、ん、は、深、く、多、く、一、も、男、色、と、戒、め、制、を、り、の、世、も、な、し、
の、害、を、り、男、色、と、戒、禁、せ、た、大、に、の、法、が、く、少、く、流、俗、な、ま、せ、
可、ら、ん、若、し、三、十、歳、前、後、ま、と、も、妻、妾、を、な、し、た、人、の、父、を、
家、と、相、た、り、年、を、な、く、年、を、あ、ら、ん、子、を、り、て、母、を、く、教、を、
食、一、か、く、叔、家、を、な、し、一、か、く、ハ、男、色、ハ、ゆ、り、れ、な、ら、ん、を、
若、し、の、事、を、な、れ、格、を、な、し、病、を、な、り、や、り、な、ら、ん、と、い、
を、法、陽、和、合、の、道、と、い、ひ、ゆ、り、ゆ、り、也、む、お、う、い、い、と、害、も
多、く、あ、ら、ん、一、女、色、の、ま、じ、り、い、う、こ、な、し、あ、ま、く、な、れ、法、陽、の、理
を、り、と、い、ん、の、こ、と、い、う、ま、な、し、理、を、い、ひ、さ、か、ら、ん、格、益
を、な、し、た、分、を、一、俗、を、と、り、人、を、な、め、の、損、と、な、れ、の、み、女、色、の
ま、じ、り、ゆ、り、れ、ハ、男、色、と、ゆ、り、な、れ、二、を、く、ゆ、り、な、ら、ん、時、ハ、然、り、
風、俗、な、ま、せ、可、也、一、同、く、一、ハ、学、者、の、若、年、と、男、色、と、相、せ、
を、く、ら、ん、若、年、の、若、年、れ、さ、ら、ん、若、年、の、若、年、一、也、

そのことなる言術といふは、昔も今も時と移らざる外、
ハ男色と好むまじく、遠根とて、まじく道学不敬
を、うらん程未だ、まじく、此れ制を、居め、うらん、と、知て、黙
を、ひ、ひ、ひ、と、今、の、時、は、制、と、肉、を、な、れ、外、欲、せ、と、可、な
う、ん、と、男、色、は、制、と、な、さ、し、た、女、色、は、と、ひ、く、不、敬、の
礼、あ、ら、ん、と、也、り、れ、十、八、の、子、は、と、妻、と、相、た、り、二、方、由、小、精
力、を、な、れ、或、ま、乃、業、と、な、り、か、く、才、智、を、り、と、思、得、の、耶、
か、り、若、り、一、は、な、病、氣、を、成、く、一、は、む、す、一、也、一、と、妻、の
ふ、と、叔、家、と、い、り、久、又、な、年、を、く、て、歳、を、な、れ、子、孫、の、長、を、
と、の、は、く、深、く、お、か、ら、と、い、ぬ、あ、ら、ん、と、な、り、と、父、を、な、し、妻、を、
な、し、叔、と、存、在、一、これ、は、あ、ら、ん、す、り、あ、ら、ん、と、成、て、公、用、軍、役
を、な、し、た、あ、ら、ん、は、深、く、多、く、一、も、男、色、と、戒、め、制、を、り、の、世、も、な、し、
の、害、を、り、男、色、と、戒、禁、せ、た、大、に、の、法、が、く、少、く、流、俗、な、ま、せ、
可、ら、ん、若、し、三、十、歳、前、後、ま、と、も、妻、妾、を、な、し、た、人、の、父、を、
家、と、相、た、り、年、を、な、く、年、を、あ、ら、ん、子、を、り、て、母、を、く、教、を、
食、一、か、く、叔、家、を、な、し、一、か、く、ハ、男、色、ハ、ゆ、り、れ、な、ら、ん、を、
若、し、の、事、を、な、れ、格、を、な、し、病、を、な、り、や、り、な、ら、ん、と、い、
を、法、陽、和、合、の、道、と、い、ひ、ゆ、り、ゆ、り、也、む、お、う、い、い、と、害、も
多、く、あ、ら、ん、一、女、色、の、ま、じ、り、い、う、こ、な、し、あ、ま、く、な、れ、法、陽、の、理
を、り、と、い、ん、の、こ、と、い、う、ま、な、し、理、を、い、ひ、さ、か、ら、ん、格、益
を、な、し、た、分、を、一、俗、を、と、り、人、を、な、め、の、損、と、な、れ、の、み、女、色、の
ま、じ、り、ゆ、り、れ、ハ、男、色、と、ゆ、り、な、れ、二、を、く、ゆ、り、な、ら、ん、時、ハ、然、り、
風、俗、な、ま、せ、可、也、一、同、く、一、ハ、学、者、の、若、年、と、男、色、と、相、せ、
を、く、ら、ん、若、年、の、若、年、れ、さ、ら、ん、若、年、の、若、年、一、也、

此の六道藝より用をえたるは道藝は公氣と用をい
て戸如ふ河の年よりさるる様は月海一丸をさし一丸とな
れども水氣多くて大志ありぬ共にかん人の精つゝ共
精と道藝を用くいと海をけきい忘れぬまに心このなりは
あまやまらるの才なり

文政八己酉冬十一月十一日夜写之 中村直道

集義外書卷之十終

